

モスの持続的成長を担う経営陣

取締役



中村 栄輔

代表取締役
取締役社長

My Favorite MOS

モスチーズバーガー



1988年 当社入社
2010年 執行役員開発本部長、取締役執行役員開発本部長
2011年 取締役執行役員国内モスバーガー事業開発本部長
2012年 取締役執行役員国内モスバーガー事業営業本部長
2014年 常務取締役事業統括執行役員
2016年 代表取締役取締役社長 ストア事業開発部管掌
2020年 代表取締役 取締役社長(現任)

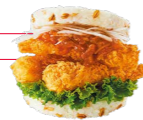


瀧深 淳

取締役常務執行役員
国際本部長

My Favorite MOS

ホタテXO海老ライスバーガー
(台湾期間限定販売)



1986年 当社入社
2009年 営業本部 東日本営業部長
2010年 執行役員東日本営業部長
2011年 執行役員海外商品本部長
2018年 執行役員国際本部長
2020年 上席執行役員国際本部長
2022年 取締役常務執行役員国際本部長(現任)



福島 竜平

取締役常務執行役員
(リスク・コンプライアンス室担当)

My Favorite MOS

ロースカツバーガー



1986年 当社入社
2008年 取締役執行役員総合企画室長兼経営企画グループリーダー
2011年 取締役執行役員 海外モスバーガー事業担当
2016年 常務取締役執行役員経営サポート本部長 商品本部管掌
2020年 取締役常務執行役員(リスク・コンプライアンス室担当)(現任)



内田 優子

取締役常務執行役員
開発本部長 兼 新規飲食事業部長

My Favorite MOS

海老カツバーガー



1985年 当社入社
2007年 マザーリーフ事業部長
2014年 執行役員開発本部長
2016年 取締役常務執行役員開発本部長 新規事業本部管掌
2020年 取締役常務執行役員開発本部長兼新規飲食事業部長(現任)



太田 恒有

取締役上席執行役員
営業本部長

My Favorite MOS

テリヤキチキンバーガー



1995年 当社入社
2014年 商品開発部長
2018年 執行役員商品本部長
2019年 執行役員営業本部長
2020年 取締役上席執行役員営業本部長(現任)



笠井 洸

取締役上席執行役員
経営企画本部長

My Favorite MOS

ソイシーバーガー
～ソイのおさかな風フライ～



2008年 株式会社野村総合研究所入社
2016年 株式会社バイカレント・コンサルティング入社
2018年 同社パートナー
2018年 当社入社、総合企画室付執行役員
2019年 執行役員総合企画室長
2021年 執行役員経営企画本部長
2022年 取締役上席執行役員経営企画本部長(現任)



高岡 美佳

取締役(社外取締役)

My Favorite MOS

モスの菜摘(なつみ)
ロースカツ



2009年 立教大学経営学部教授(現任)
2014年 当社社外取締役(現任)
2015年 共同印刷株式会社社外取締役(現任)
2018年 SGホールディングス株式会社社外取締役(現任)
2019年 株式会社ファミリーマート社外取締役



中山 勇

取締役(社外取締役)

My Favorite MOS

とびきりチーズ
～北海道産ゴーダチーズ使用～



1981年 伊藤忠商事株式会社入社
2013年 株式会社ファミリーマート代表取締役社長
2016年 ユニー・ファミリーマートホールディングス株式会社代表取締役副社長、株式会社ファミリーマート代表取締役会長
2019年 カネ美食品株式会社代表取締役会長
2020年 当社社外取締役(現任)



小田原 加奈

取締役(社外取締役)

My Favorite MOS

ソイモスチーズバーガー



1988年 サンワ・等松青木監査法人入所
1998年 米国クーパーズ・ライブランド入所
2002年 ゼネラル・エレクトリック社入社
2009年 日本ストライカー・ホールディング株式会社CFO
2013年 日本コカ・コーラ株式会社SVPファインナンスコントローラー、コカ・コーライーストジャパン株式会社社外監査役
2015年 アデコ株式会社取締役管理本部長兼CFO、株式会社VSN取締役
2022年 当社社外取締役(現任)

監査役



永井 正彦

常勤監査役

My Favorite MOS

モスの菜摘(なつみ)
テリヤキチキン



1990年 当社入社
2013年 経営管理部長
2014年 執行役員経営サポート部長
2016年 経営サポート本部参事
2018年 常勤監査役(現任)



白井 司

常勤監査役

My Favorite MOS

スパイシー
チリドッグ



1987年 当社入社
2004年 管理本部部長
2010年 執行役員総合企画室長
2014年 執行役員営業企画部長
2019年 常勤監査役(現任)



藤野 雅史

監査役(社外監査役)

My Favorite MOS

モスライスバーガー
海鮮かきあげ(塩だれ)



2000年 専修大学大学院経営学研究科修士課程修了
2003年 一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了
2017年 日本大学経済学部教授(現任)
2018年 日本経営会計専門家研究会常務理事(現任)
2020年 当社社外監査役(現任)



松村 卓治

監査役(社外監査役)

My Favorite MOS

とびきりチーズ
～北海道産ゴーダチーズ使用～



2000年 弁護士登録(東京弁護士会)
2002年 新東京法律事務所入所
2015年 アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業パートナー弁護士(現任)
2017年 株式会社プロプライフグループ 社外監査役(現任)
2018年 鳥居薬品株式会社社外監査役(現任)
2022年 株式会社文化放送監査役(現任)
2023年 当社社外監査役(現任)

価値を提供し続けるモスグループのあゆみ

1972年に東京・成増でモスバーガー1号店をオープンさせて以来、人間や自然への愛情を根幹に事業を展開してきました。モスグループは今後も日本生まれのハンバーガーショップとして成長を続け、お客さまの暮らしをお支える新しい価値の創造に取り組んでいきます。

●事業のあゆみ ●社会価値、環境価値の創出に向けた取り組み

1970年代

- 1972 ●モスバーガー1号店「成増店」[東京都]オープン
- モスバーガーの看板商品“モスバーガー”発売
- ホットドリンクを陶器のカップで提供(イトインの場合)
- 1973 ●日本のチェーン店で初となる和風バーガーの代表格“テリヤキバーガー”発売
- 1979 ●「愛のモスボックス」募金活動スタート、全国の店舗に拡大

1973年

“テリヤキバーガー”発売

日本ならではの醤油や味噌をベースにしたテリヤキソースを合わせた和風バーガー“テリヤキバーガー”が誕生したのは、モス創業2年目。世界中で多くの人に親しまれているテリヤキバーガーの元祖です。



1980年代

- 1980 ●モスの本部と店舗、加盟店同士による組織「モスバーガー共栄会」発足
- 1982 ●店舗品質向上のための「HDC活動」を開始
- 1985 ●株式を店頭公開
- 1986 ●初のドライブスルー店「牧港店」[沖縄県]オープン
- 外食産業において初めての全国47都道府県への出店達成
- 1987 ●国内の米消費低迷を背景に“モスライスバーガー”発売
- 1988 ●株式を東京証券取引所市場第二部に上場

1983年

盲導犬モス1号誕生(ラサール号)

店舗の募金箱「愛のモスボックス」への募金により、東京盲導犬協会(現アイメイト協会)にて盲導犬モス1号となるラサール号が誕生。募金活動は現在も続いており、これまでに49組のアイメイト(盲導犬)のペアが誕生しています。



1990年代

- 1991 ●台湾にモスバーガーがオープン、海外出店を本格展開
- 1992 ●“モスチキン”発売、クリスマス商戦に参入
- 1995 ●全店舗でリユース食器の導入を推進
- 1996 ●株式を東京証券取引所市場第一部に上場(指定替え)するとともにホームページを開発
- 1997 ●「モスの生野菜」を全店導入(新価値宣言)
- 配送システムを業界初の試みである三温度帯一括配送に切り替え
- 1999 ●紅茶専門店「マザーリーフ」、和食レストラン「あえん」オープン

1993年

シンガポールにモスバーガーがオープン

シンガポールのオーチャードロードの伊勢丹内に1号店「イセタンスコッツ店」がオープン。海外モスの中で成長戦略のフラッグシップ国でもあるシンガポールには、現在49店舗を出店しています。



モスバーガーシンガポール1号店グランドオープン

5/28 イセタンスコッツ店大盛況!

※社内報「モスルズ85号」からの引用

2000年代

- 2002 ●アレルギー体質にも配慮した「モスキッズメニュー」の販売を開始(現在は「低アレルギーメニュー」として販売)
- 2003 ●チェーンメンバーのための内部告発者支援窓口を開発
- 2004 ●バンズの代わりにレタスで具材をサンドした「モスの菜摘(なつみ)」シリーズ発売
- 「環境報告書2004」を発刊(現MOS REPORT)
- 2005 ●食育基本法を背景に、独自の「モスの食育プログラム」を開始
- アレルギー・主要原産地情報をレシート用紙で提供
- 2006 ●農地所有適格法人(株)サンブレイス[静岡県](現(株)モスファームサンブレイス)設立
- キッザニア東京に「ハンバーガーショップ」出展
- お持ち帰り用手提げ袋としてポリ袋に代わり、紙バッグを導入
- 2008 ●株式会社ダスキンと資本・業務提携契約を締結
- 国産肉(牛豚合挽き肉)100%使用のハンバーグが特徴の新定番商品「とびきり」シリーズ発売

2003年

ショッピングサイト「モス畑」開設

高品質な野菜や果物を販売するホームページ上のショッピングサイト「モス畑」を開設。現在は、2022年開設のモスバーガーECサイト「モス オンラインショップ ~Life with MOS(ライフ ウィズ モス)~」が好評です。



2010年代

- 2010 ●補助犬受け入れ推進の意思表示として、店頭ステッカーを掲示
- ミスタードーナツとのコラボレーションショップ「MOSDO!(モスド)」オープン
- 2015 ●フードコート向け pasta 専門店「mia cucina(ミアクッチーナ)」オープン
- お肉を使わない「ソイパティ」シリーズを発売
- 2016 ●障がいのある方のアートで店舗を彩る「MOS ごと美術館 with cotocoto」を新潟で開始
- 2017 ●障がいのある方の雇用の拡大を目的とした(株)モスシャインを設立
- ※2018年に特例子会社の認定を取得
- 国内モスバーガー全店でエコマーク「飲食店」認定を取得
- 2019 ●ベトナム国立ダナン観光短期大学と提携し、ベトナム人材の育成採用プログラム「ベトナムカゾク」開始
- 「MOS PREMIUM(モスプレミアム)」[マザーリーフ ティースタイル]の複合店舗、「桜木町クロスゲート店」オープン

2013年

「朝採りレタス」企画を実施

群馬県の店舗メンバーが同じ県内にある契約農家にてレタスを朝採りし、そのレタスを使ってハンバーガーを製造・販売しました。現在も「モスの産直野菜フェスタ」という名称で同じ取り組みを行っています。



2020年代

- 2020 ●海外9地域目のフィリピンにモスバーガーがオープン
- 原材料に動物性食材や香りの強い五臓(ごくん)を使用しない環境と身体にやさしい「グリーンバーガー」発売
- 2022 ●ニューノーマルの需要に合わせた新業態「キッチンカー MOS 50(モスフィフティ)」稼働
- 50周年企画、モスバーガー1号店最寄「成増駅」を「なりもず駅」に期間限定で名称変更
- モスバーガー EC サイト「モス オンラインショップ ~Life with MOS(ライフ ウィズ モス)~」オープン
- 一等地にも適応したチーズバーガー専門の新業態「mosh Grab'nGo(モッシュグラブアンドゴー)」オープン
- 2023 ●原材料に動物性食材を使用しない「MOS PLANT-BASED」シリーズの新商品として、フィッシュ風バーガー“ソイシーバーガー ~ソイのおさかな風フライ~”を販売開始

2023年

「テリヤキバーガーの日」制定

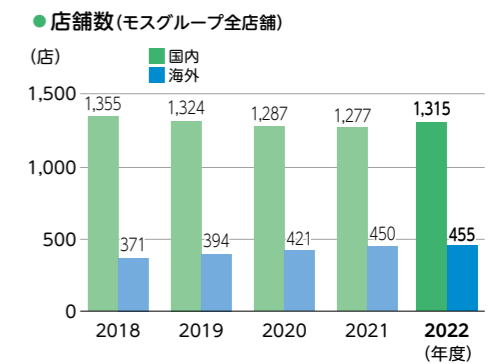
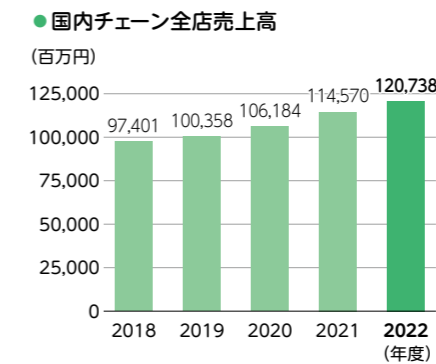
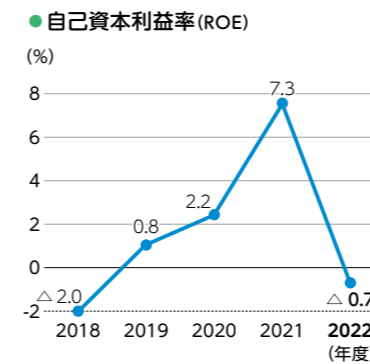
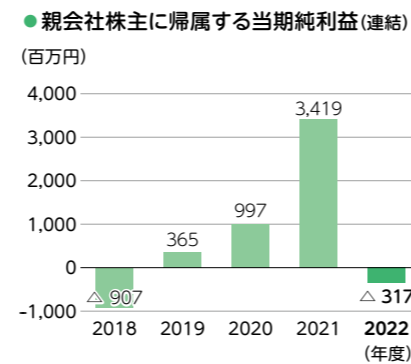
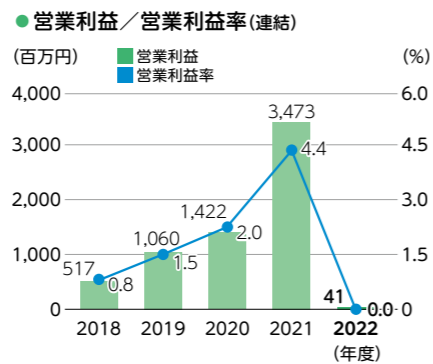
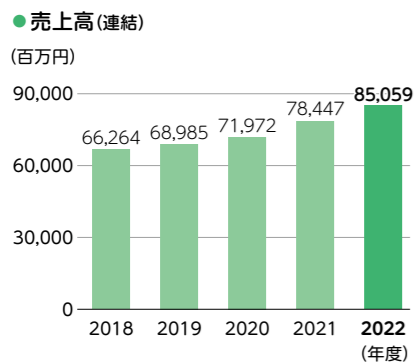
テリヤキバーガー生誕50周年を記念して、毎年5月15日を日本記念日協会認定の「テリヤキバーガーの日」と制定しました。1973年の販売開始以来、一度も休売することなく販売を続けており、累計4億食以上を販売しました。



11カ年財務サマリー (連結)

主要財務データ

決算期(年度)	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
損益状況 (単位:百万円)											
売上高	62,371	65,329	66,310	71,113	70,929	71,387	66,264	68,985	71,972	78,447	85,059
営業利益	1,889	2,157	1,554	3,824	4,663	3,734	517	1,060	1,422	3,473	41
経常利益	2,124	2,378	1,523	4,011	4,892	3,911	724	1,232	1,427	3,634	356
親会社株主に帰属する当期純利益	1,520	1,744	672	2,284	3,050	2,385	△ 907	365	997	3,419	△ 317
財務状況 (単位:百万円)											
総資産	50,373	53,207	55,301	57,655	61,589	61,834	60,588	64,348	64,827	69,602	74,479
純資産	39,781	41,350	42,376	43,803	46,140	47,950	45,460	45,100	45,338	48,576	48,091
有利子負債	1,082	1,000	1,159	977	2,590	1,894	2,968	5,757	5,271	3,993	7,607
キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)											
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,038	4,648	4,103	5,069	5,379	5,096	837	5,661	4,399	10,449	1,422
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12	△ 3,612	△ 4,938	△ 3,514	△ 4,579	△ 3,387	△ 2,217	△ 401	45	△ 798	△ 2,974
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 870	△ 981	△ 859	△ 1,047	731	△ 1,665	184	△ 2,465	△ 2,719	△ 3,825	611
フリー・キャッシュ・フロー	4,026	1,036	△ 835	1,555	800	1,709	△ 1,380	5,260	4,445	9,650	△ 1,552
1株当たり情報 (単位:円)											
1株当たり当期純利益	49.33	56.58	21.82	74.12	98.94	77.39	△ 29.43	11.84	32.34	110.91	△ 10.31
1株当たり純資産	1,287.45	1,337.79	1,372.00	1,418.05	1,491.22	1,549.55	1,469.23	1,456.61	1,463.64	1,567.14	1,551.72
1株当たり配当金	20.00	22.00	22.00	24.00	26.00	28.00	28.00	28.00	22.00	28.00	28.00
経営指標 (単位:%)											
自己資本比率	78.8	77.5	76.5	75.8	74.6	77.3	74.8	69.8	69.6	69.4	64.3
自己資本利益率(ROE)	3.9	4.3	1.6	5.3	6.8	5.1	△ 2.0	0.8	2.2	7.3	△ 0.7
総資産経常利益率(ROA)	4.3	4.6	2.8	7.1	8.2	6.3	1.2	2.0	2.2	5.4	0.5
配当性向	40.5	38.9	100.8	32.4	26.3	36.2	-	236.5	68.0	25.2	-



決算の概要

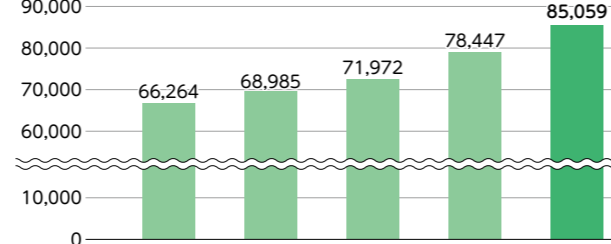
2023年3月期の財務分析

概況

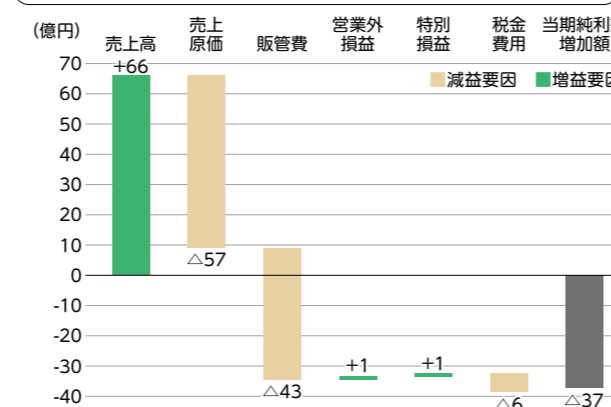
国内モスバーガー事業では、期中に54店舗の積極出店を実施したほか、既存店においてもテイクアウトやデリバリーの強化に加え、さまざまなマーケティング施策を推進してきたことが奏功し、売上状況は好調でした。一方で、想定をこえる仕入価格の上昇や物流費の高騰などにより、商品やサービスの品質を維持するためにやむを得ず、二度にわたって商品の価格改定を実施させていただきました。海外事業では、おもに売上規模の大きい台湾やシンガポールなどでコロナ禍による厳しい状況が続き、目標未達となりました。12月末時点での海外店舗数は前年同期比5店舗増の455店舗となりました。

これらの結果、当連結会計年度の連結経営成績は、売上高が850億59百万円(前期比8.4%増)、営業利益は41百万円(前期比98.8%減)となりました。さまざまな施策や積極出店などの施策により売上高は増加しましたが、各種コストの想定をこえる上昇により、営業利益は大幅に減少しました。最終損益は海外事業での減損損失などにより3億17百万円の純損失となりました。

連結売上高(外部顧客への売上高)5期比較



親会社株主に帰属する当期純利益の増減要因



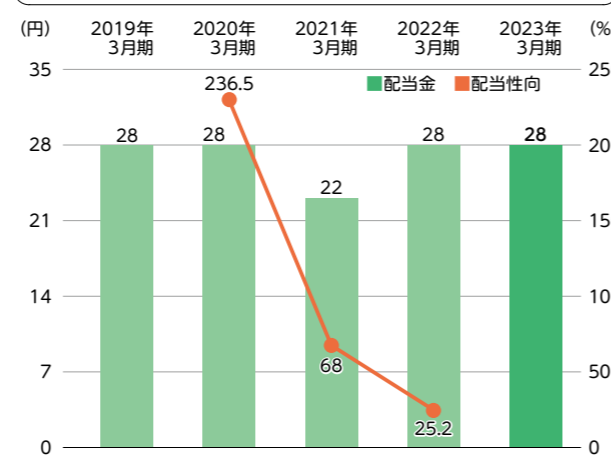
おもな内訳
 ●売上高: 国内モスバーガー事業+33 海外事業+29 その他飲食事業+3
 ●売上原価: 原価率+2.6%
 ●販管費: 販管費率+1.7%: 給料手当+13 減価償却費+4 運賃+4 販売促進費+4 支払手数料+4 水道光熱費+3 家賃地代+3
 ●特別利益: 助成金収入△7
 ●特別損失: 減損損失+4

株主還元方針・配当

当社は、株主の皆さまへの積極的な利益還元を経営の重要課題と位置付けています。業績や経営環境との連動を図りつつ、安定的な利益還元を継続することを基本方針としています。

当事業年度の配当については、上記方針に基づき1株当たり28円の配当(うち中間配当14円)を実施しました。

配当金と配当性向 5期比較



※2019年3月期、2023年3月期の配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載していません。

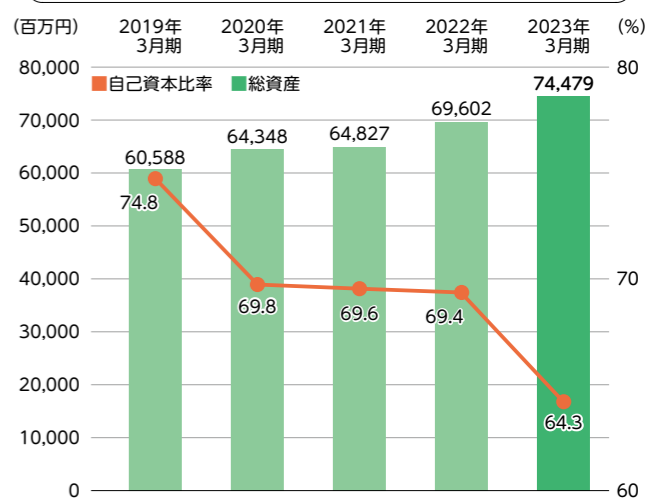
財政状態

資産 当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度に比べ48億76百万円増加し、744億79百万円となりました。流動資産は前連結会計年度に比べ28億63百万円増加し、固定資産は20億12百万円増加しています。流動資産が増加したおもな理由は、売上・仕入の増加により売上債権、棚卸資産が増加したこと、キャッシュレス決済の増加により未収入金が増加したことによるものであります。固定資産が増加したおもな理由は、出店などにより有形固定資産が増加したことによるものです。

負債 当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度に比べ53億61百万円増加し、263億88百万円となりました。この増加のおもな理由は、未払法人税等が減少した一方で、設備投資のための長期借入金が増加したこと、キャッシュレス決済の増加により加盟店への返金にかかる未払金が増加したことによるものです。

純資産 当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ4億85百万円減少し、480億91百万円となりました。また、自己資本比率は前連結会計年度末69.4%から当連結会計年度末は64.3%と5.1%減少しています。

総資産と自己資本比率 5期比較



キャッシュ・フローの状況

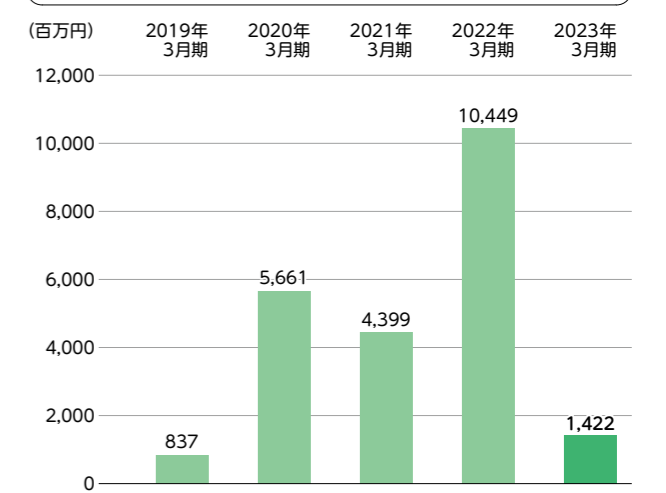
当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フロー14億22百万円、投資活動によるキャッシュ・フロー△29億74百万円、財務活動によるキャッシュ・フロー6億11百万円などにより、前連結会計年度末に比べ7億14百万円減少し、190億31百万円(前年度比3.6%減)となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー 主として、税金等調整前当期純利益の減少や売上債権、棚卸資産、仕入債務等の運転資金の増減に加え、法人税等の支払いの増加により資金が減少したため、前連結会計年度に比べ90億26百万円減少し、14億22百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー 主として、投資有価証券の売却及び償還の増加によって資金が増加した一方で、出店などにより有形固定資産の取得による支出が増加したことにより資金が減少したため、前連結会計年度に比べ21億76百万円減少し、△29億74百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー 主として、リース債務の返済や配当金の支払いの増加によって資金が減少した一方で、設備投資のための長期借入れにより資金が増加したため、前連結会計年度に比べ44億37百万円増加し、6億11百万円となりました。

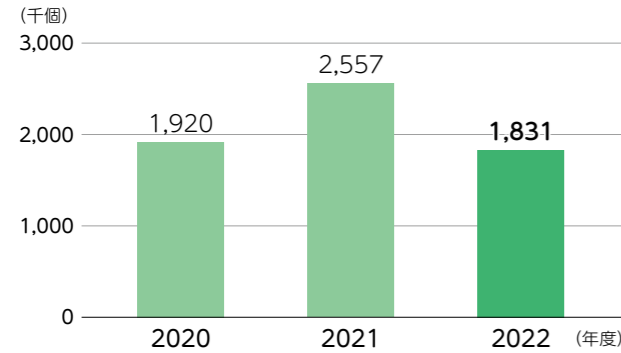
営業活動によるキャッシュ・フロー5期比較



非財務ハイライト

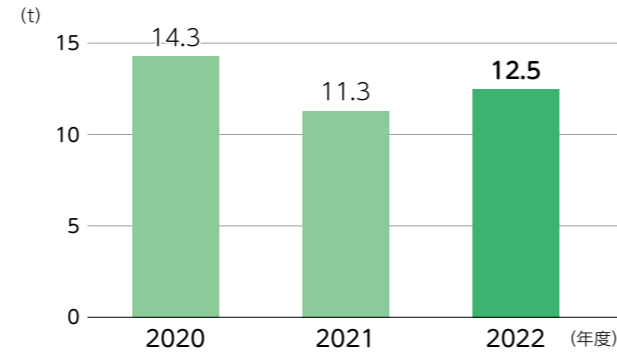
環境 Environment

グリーンカテゴリ商品販売数



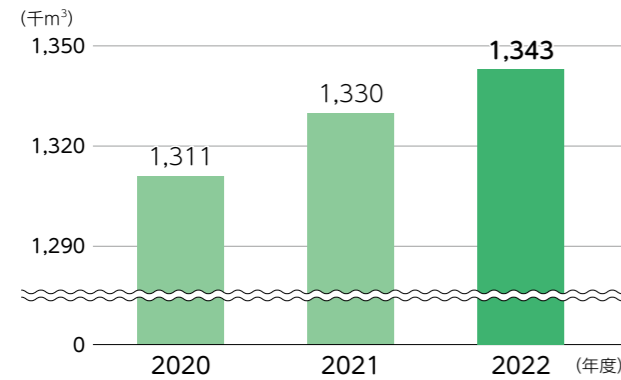
大豆由来の植物性たんぱくを使った「ソイパティ」商品や原材料に動物性食材や五臓を使用しない「グリーンバーガー」など、グリーンカテゴリと分類する商品の充実により、多様化する食のニーズへの対応を進めています。

フードバンクへの寄贈量



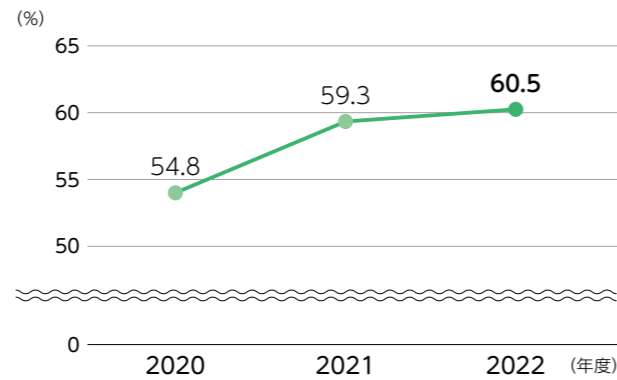
フードバンク活動を食品サポーターとして支援し、品質に問題はないものの廃棄せざるを得ない食材を無償提供することで、食品ロスの発生を抑制しています。

資源(水)使用量 (店舗)



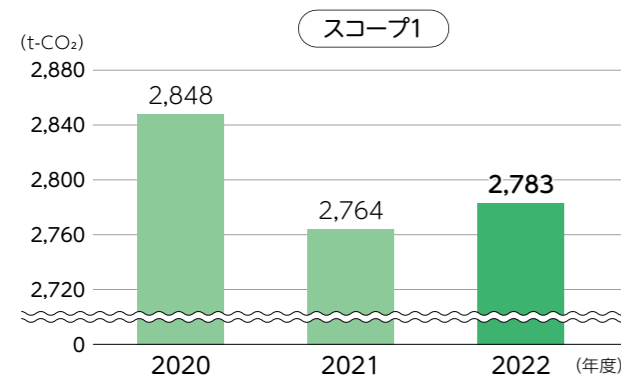
店舗向け教育ツール「SDGs通信」などを通じて、店舗メンバーへ節水などの環境教育を行っています。

食品廃棄物再生利用等実施率 (モスバーガーチェーン)

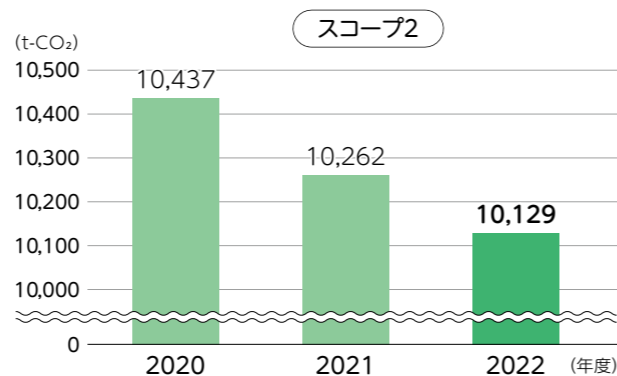


店舗で発生した「調理くず」の一部や「廃食油」を、飼料化、堆肥化、工業原料(廃食油のみ)などとしてリサイクルを進めています。

CO₂排出量

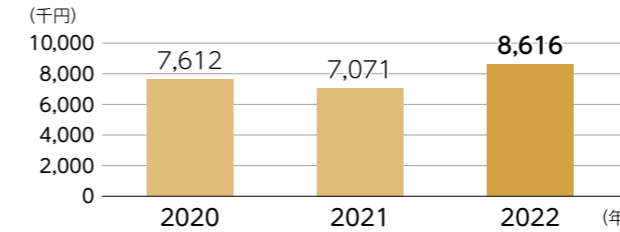


中期的な温室効果ガス排出量削減目標として、スコープ1及び2の排出量を2030年度には46%削減(2013年度比)することを目指しています。さらに2050年度にはカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指します。



社会 Social

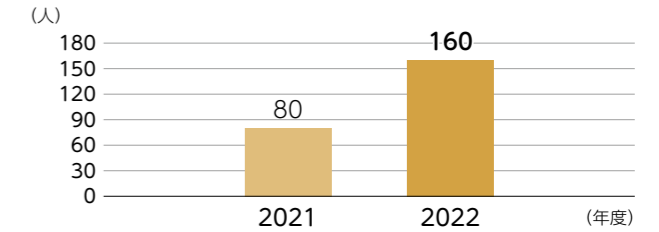
店頭募金総額*



お客さまからお預かりした募金は、公益財団法人アイメイト協会などに寄付しています。

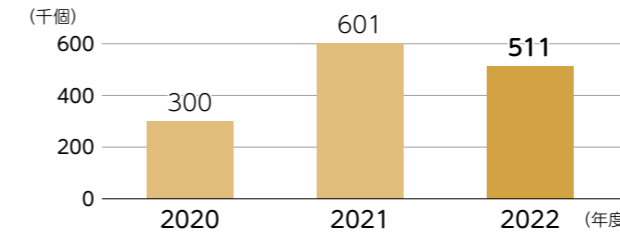
*愛のモスボックス募金及び緊急支援募金

モスの食育プログラム参加人数 (遠隔授業)



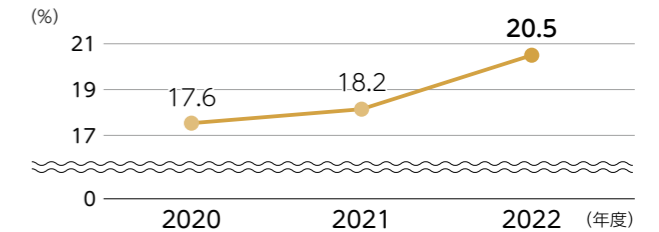
地域、場所などを選ばずどこでも学べ、教育格差を解消する遠隔授業(オンライン)を行っています。

地域密着商品年間販売個数



各地の産地支援や地域活性化を応援する取り組みとして、地域食材や地域にゆかりのあるものを使用し、モス流にアレンジした商品を地域限定で販売しています。

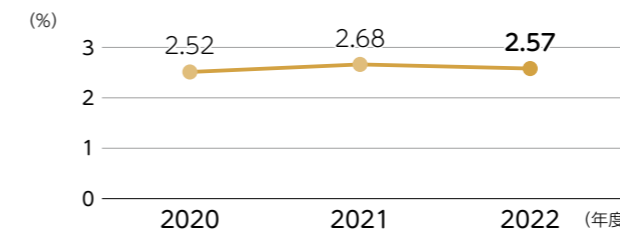
女性管理職比率*



多様なメンバーがサポートし合いながら、いきいきと働ける環境を整えています。

* (株)モスフードサービス単体

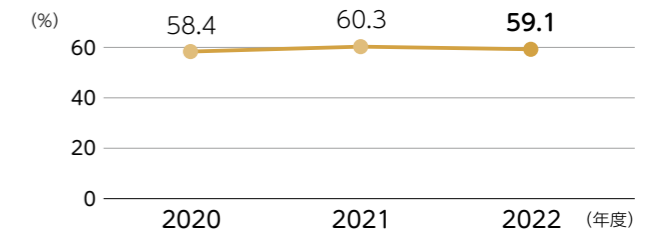
障がい者雇用率*



特例子会社である株式会社モスシャインを通じ、障がいのある方々を安定的に雇用しサポートしています。

* (株)モスフードサービス及び国内グループ会社

年次有給休暇取得実績*

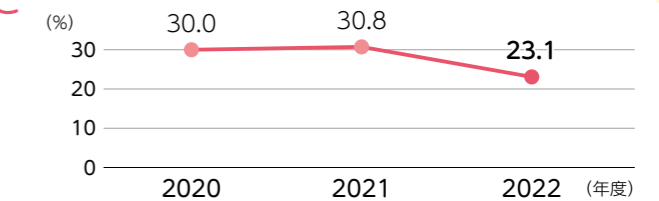


連続休暇取得の推奨などの取り組みにより、有給休暇取得率の向上を図っています。

* (株)モスフードサービス単体

ガバナンス Governance

女性役員比率* (取締役、監査役)



適切な人材を役員に選定し、取締役会の多様性確保に努め、2030年までに女性役員比率30%の達成を目指しています。

* (株)モスフードサービス単体(各期株主総会終了時点)

企業・株式情報

2023年3月31日現在

会社情報

社名	株式会社モスフードサービス MOS FOOD SERVICES, INC.	上場市場	東京証券取引所プライム市場
設立	1972年7月21日	証券コード	8153
資本金	114億1,284万円	株式公開日	1985年11月
本社所在地	〒141-6004 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 4階	発行可能株式総数	101,610,000株
従業員数	1,399名	発行済株式総数	32,009,910株
		単元株式数	100株
		株主数	45,025名

グループ会社

株式会社モスフードサービス

フランチャイズチェーンによるハンバーガー専門店「モスバーガー」の全国展開、その他飲食事業などを行う。



その他飲食事業



株式会社モストアカンパニー

モスバーガーの運営を行う。



株式会社エム・エイチ・エス

安全な食を提供するため、施設・設備検査や微生物検査など、衛生管理に関する業務全般を行う。

株式会社モスクレジット

モスグループ加盟店を対象とした融資や保険代理業、機器リース・レンタル業務、決算データ管理を行う。

株式会社モスシャイン

障がい者雇用の拡大と安定を図るため、個々の特性や能力、適性に合った職場環境を整備することを目的に設立された(株)モスフードサービスの特例子会社。モス本社の事務補助業務や店舗の商品提供業務などを行う。

外部からの評価

日経「スマートワーク経営」調査



多様で柔軟な働き方の実現などにより人材を最大限活用するとともに、イノベーションを生み、新たな市場を開拓し続ける好循環をつくり、生産性など組織のパフォーマンスを最大化させることを目指す経営戦略です。当社は★3の評価でした。

日経「SDGs経営」調査



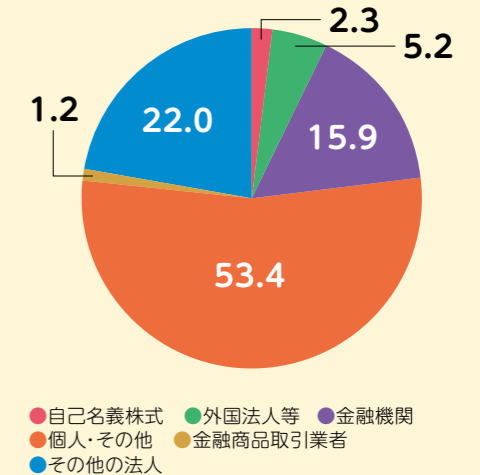
環境、社会、企業統治を重視するESG 投資の拡大や消費者意識の変化などに見られるように、投資家や消費者はSDGsに積極的に取り組む企業を評価する傾向がますます強まっています。SDGs を経営と結びつけることで、事業を通じて社会・経済・環境の課題解決に取り組み、企業価値向上につなげている企業を評価します。当社は★3の評価でした。

●大株主の状況

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,045	9.74
紅梅食品工業株式会社	1,400	4.48
株式会社ダスキン	1,315	4.21
株式会社ニッソー	1,214	3.88
日本生命保険相互会社	1,209	3.87
山崎製パン株式会社	718	2.30
株式会社日本カストディ銀行	643	2.06
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	376	1.20
モスフードサービス協会持株会	318	1.02
日本ハム株式会社	301	0.96

※ 当社は、自己株式730千株を保有していますが、上記大株主からは除いています。

●所有者別株式分布状況(%)



店舗数

モスグループ総合計

1,770 店

国内店舗数

モスバーガー

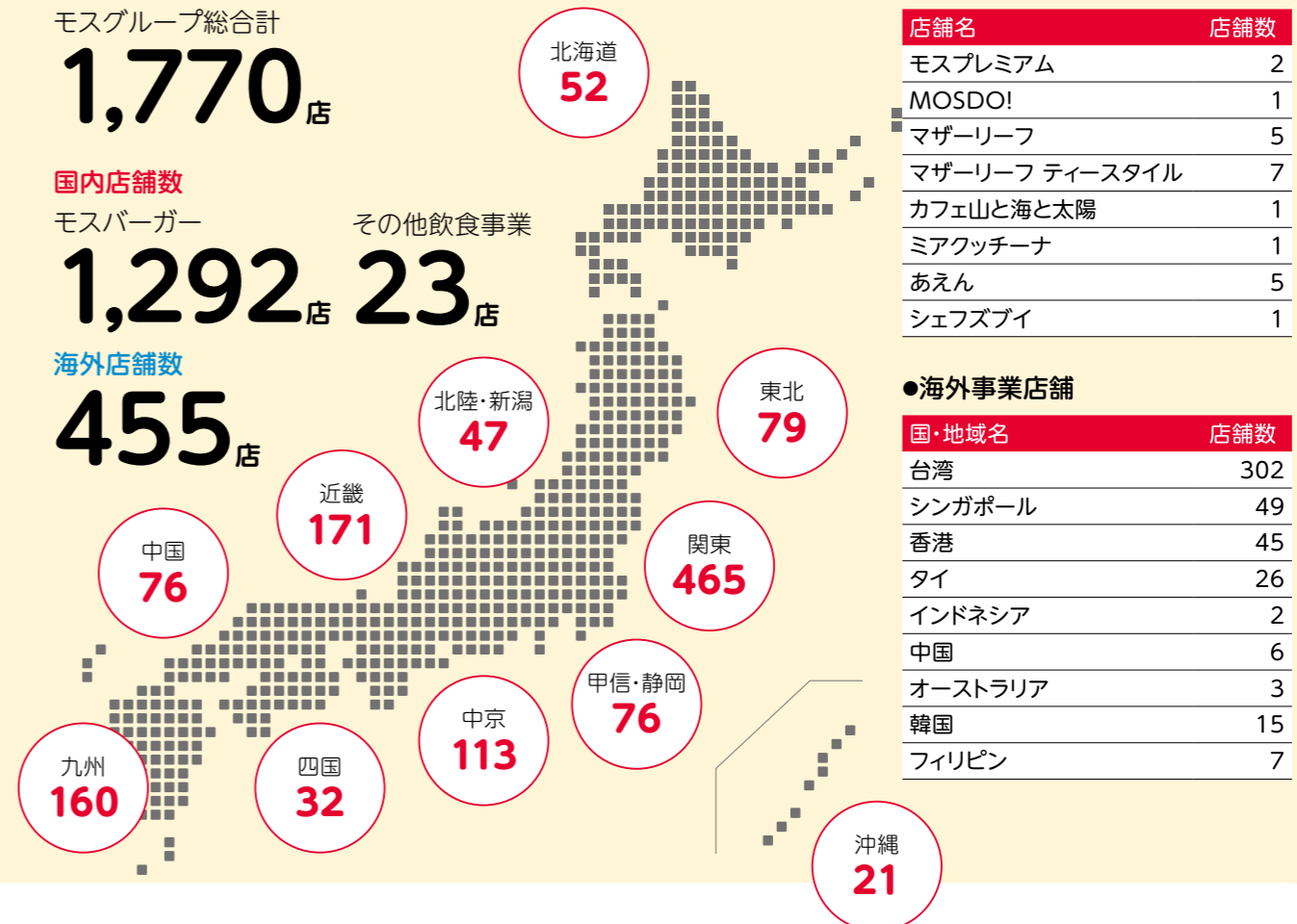
1,292 店

その他飲食事業

23 店

海外店舗数

455 店



●その他飲食事業店舗

店舗名	店舗数
モスプレミアム	2
MOSDO!	1
マザーリーフ	5
マザーリーフ ティースタイル	7
カフェ山と海と太陽	1
ミアクッチーナ	1
あえん	5
シェフズブイ	1

●海外事業店舗

国・地域名	店舗数
台湾	302
シンガポール	49
香港	45
タイ	26
インドネシア	2
中国	6
オーストラリア	3
韓国	15
フィリピン	7

健康経営優良法人



地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。当社は「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」に認定されました。2020年から4年連続となります。

厚生労働大臣認定「えるぼし」



女性の職業生活における活躍の推進に関する法律「女性活躍推進法」に基づき、一定基準を満たし、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業を厚生労働大臣が認定する制度です。当社は3つ星(3段階目)の評価でした。